

二・越谷市の城館跡

菅波 昌夫

埼玉県の名城

「日本100名城」は、二〇〇六年に「財団法人日本城郭協会」(1)が選定した名城の一覧であり、埼玉県からは①大里郡寄居町の「鉢形城(はちがたじょう)」、②川越市の「川越城(かわごえじょう)」が選定された(1)。

「日本名城百選」は、二〇〇八年に『日本名城百選』(2)に掲載された名城の一覧であり、埼玉県からは①大里郡寄居町の「鉢形城(はちがたじょう)」、②比企郡嵐山町の杉山城(すぎやまじょう)が掲載された(2)。

越谷市の城館跡

「越谷市の城館跡」に関する代表的な先行研究として、高崎 力(一九八八)「越谷における中世の城館跡」(3)があり、未だにこの論考を超える調査・研究結果は発表されておらず、本論では高崎 力(一九八八)(3)における「まえがき」を以下に引用する。

「越谷の古代は、見田方遺跡の発掘調査によりその一部は解明されたが、中世については資料不足から未だしの感がある。昭和61年度県立歴史資料館による埼玉中世城館跡調査4年目、県東部地区が調査対象になり、私も担当員の一人として越谷市を担当した。その調査時点での概要をもとに今回の整理を試み、ともすれば消滅しそうな越谷の中世の記録の一端を後世に残したい所存である。

今回調査の対象とした中で、鎌倉期の野島氏、同じく別府氏は既に遺構すら把握できない。室町期の新方氏は僅かに向畑陣屋跡としての水路跡しかない。越谷会田出羽氏および越谷御殿地は、おうよその位置を推定するにすぎない。またつい最近まで続いていた宇田氏も昭和60年頃退転し、屋敷跡は住宅地となった。このような現状の中で大相模の大相模二郎能高屋敷(現中村氏)、神明下の会田七左衛門家などは、幾多の困難を乗り越えて今に至っている数少ない家系である。

今回の対象以外でも、恩間の渡辺家、瓦曽根の秋山家、中村家、川柳の中村家など由緒ある家系もあり、今後の調査対象としたい。

中世の城館跡といっても豪壮な城ではなく陣屋構え、館などで、水堀と土塁をめぐらした程度の屋敷跡である。なお、本文には多くの私見があることをおこわりいたします」(3)

注

(1) 公益財団法人「日本城郭協会」「日本100名城」一覧

<https://jokaku.jp/business/great-castles/>

(2) 村田 修三(総監修)(二〇〇八)『日本名城百選』小学館

(3) 高崎 力(一九八八)「越谷における中世の城館跡」

<https://koshigayahistory.org/131.pdf>